

春日神社



社報 春日神社

歳末号(第44号)

発行日 令和7年12月15日

発行者 〒870-0031

大分市勢家町4-6-87

春日神社 宮司 宮本 隆之

TEL 097-532-5638

題字 東郷平八郎

もくじ

祭典ごよみ

令和8年初詣のご案内／授与所の時間

初詣交通規制／厄祓いのご案内／戌の日のお知らせ

令和8年干支「午」にちなんで／古札御守のお焚き上げ

終戦80周年戦没者慰霊祭／忠魂碑と春日公園

神社研修旅行／トピックス

婚礼部より

御祭神

武甕槌命

天照大神の命によつて大国主命より国譲りを成し遂げた武神。

勝運、交通安全、國家鎮護、産業発展等。

経津主命

神武東征を成功へと導いた武神。災難除けの神。

岩戸開きにて最初に祝詞を奏上した知恵の神。

天津児屋根命

藤原氏の祖神にして国政・国土經營、祭祀の神。

国土安泰、産業発展、家内安全、交通安全等。

姫大神

天津児屋根命の后神。家内安全、夫婦円満。

由緒

平安時代の貞觀二年（八六〇）に國司藤原朝臣世數が奈良の春日大社から御祭神を迎えて創建された一一六〇年以上の歴史を有する大分県を代表する古社です。

歴代の為政者からの崇敬を集め、特に隆盛を極めたのが大友宗麟の治世であり、壯麗な社殿が整えられましたが、天正十四年（一五八六）の島津軍の府内入城に際して、兵火は社殿のみならず多くの社宝や古記録などを悉く焼き尽くしてしまいました。

明治維新後は県社に列格、県都の總氏神として市民の厚い崇敬を受けてきましたが、昭和二十年（一九四五）、米軍空襲により、境内は再び焦土と化しました。

現在の社殿は昭和四十二年（一九六七）、氏子崇敬者の淨財寄進を頂戴して再建した復興の証。その後は大分市の發展とともに今日では多くの参拝者を迎えるようになりました。

戦禍を免れた八千坪の緑豊かな杜は、県保護樹に指定されている樹齢一千年の大楠に代表される緑あふれる憩いの杜として親しまれています。

二月十七日	祈年祭	令和八年は皇紀二六八六年、日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斎唱します。
二月二十三日	天長祭	今上天皇御誕生の日を慶祝する祭典です。
二月二十九日	春季大祭宵祭	春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたり庄内神樂が奉納されます。
三月十二日	春季大祭宵祭	今上天皇御誕生の日を慶祝する祭典です。
四月十三日	例祭	当社で一番重要な祭典です。神社本庁から
四月二十九日	昭和祭	昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぎ、激動の昭和を偲ぶ祭典です。

令和八年
春日神社初詣のご案内

【ご祈願について】

●受付時間

(個人) 午前九時～午後五時

(団体企業)事前にご予約ください。

●申込み

家内安全や厄除など個人の祈願の申込みは当日の受付となります。企業・団体の祈願については電話での事前予約を承っております。詳細についてはホームページをご覧ください。

●初穂料

個人祈願 六千円 企業団体祈願 一万五千円

●祈願場所

一日～七日までの個人祈願は本殿左隣の儀式殿で、企業団体祈願は本殿にて行いますが、申込時間が重なった場合は儀式殿となります。

○正月期間中、参拝が難しい方のために郵送祈願を承っています。

ついては「新年祈願受付」の看板にて表示します。

(個人) 人一月一日(木)～一月七日(水) 於 參集殿

(団体企業)一月一日(木)～一月四日(日) 於 參集殿

一月五日(月)～一月七日(水) 於 本殿

※一月八日(木)以降はテント授与所にてそれぞれの受付を行います。

(TEL ○九七一五三一五六三八)

【神札・御守・縁起物の授与時間】

十二月三十一日	二十三時	～	一月一日	二十二時半
一月二日	七時	～	二十時	
一月三日・四日	七時	～	十九時	
一月五日・六日	六時半	～	十八時	
一月七日	七時	～	十七時	
一月八日以降	八時半	～	十七時	

●破魔矢・熊手・土鈴等の縁起物は、十二月二十二日(月曜日・冬至)から社頭にてお受けできます。

●神札・御守は年間を通じて授与しておりますので、ご都合のよい日にお越しください。

(年内の社頭での授与時間 八時三十分～十七時 於守札授与所)

●御朱印は大晦日より書置き(紙)のみの授与とします。(一月十三日(火)から直書き対応)

●おみくじの結び所は設けておりません。引いたおみくじは境内に設置した専用の箱に納めていただきか、持ち帰りください。



十二月三十日 師走大祓式・除夜祭

一年間の罪穢れを祓つて新年を迎えるため心身を清めるとともに行く年への感謝を祈念します。

一月一日 歳旦祭

元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の安寧をお祈りします。

二月一日 初午祭(摂社 稲荷神社)

本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。五穀豊穣と産業発展を祈念します。

二月十一日 紀元祭

令和八年は皇紀二六八六年、日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斎唱します。

二月十七日 祈年祭

本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稻作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

二月二十三日 天長祭

今上天皇御誕生の日を慶祝する祭典です。

二月二十九日 春季大祭宵祭

春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたり庄内神樂が奉納されます。

三月十二日 春季大祭宵祭

今上天皇御誕生の日を慶祝する祭典です。

四月十三日 例祭

当社で一番重要な祭典です。神社本庁から

四月二十九日 昭和祭

昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぎ、激動の昭和を偲ぶ祭典です。



本殿横の神馬像

【初詣 神社周辺交通規制のご案内】

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。大晦日から周辺の進入路については交通規制が行われますのでご注意ください。駐車場は当社境内地の「春日公園」をご利用ください。また境内、駐車場とともに禁煙とさせていただきます。

◎ 指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より
1月7日午後2時まで

◎ 打死不向裁判

1月3日午後1時 水曜日 1月3日前半 水曜日



国道10号線の中春日交差点から春日神社に向った場合、右車線は春日公園内駐車場へ、左車線は大在大分港線への進行となります。

令和八年の干支は「丙午」歳
かつて春日神社では
やぶさめ
流鏑馬をおこなつていた

「年末年始のこの時期になると話題になるのが干支です。令和八年は「丙午（ひのえうま）」。馬（午）は古代より人の生活には切っても切り離せない動物であり、農耕や運送などで活躍していました。他方、神事として武運長久を祈念する「流鏑馬」が全国各地でおこなわれ、当社においても昭和三十八年まで実施されていました。



流鏑馬のはじまり

当社で初めておこなわれたのは寛永十四年（一六三七）九月十九日。寛永十一年、竹中氏に代わつて府内藩主となつた日根野織部正吉明公は藤原氏を祖としていたこともあり、当社を厚く崇敬し、長らく中絶していた神事を再興し、秋祭りに流鏑馬を新たにおこなうことを定めた。日根野公は馬医中川氏に命じて、その親族にあたる国東郡竹田津村の井上右門を召し寄せ流鏑馬役を勤めさせ、以降その子孫が当社に属しその役を勤めた。その家からも乗り手がいなくなり、明治期からは別の人気が騎手になつていた。最後の騎手は元軍人の後藤勇吉氏（大分市中島三条）がつとめた。また祭事の役目は笠和郷六ヶ村にその任を命じた。

珍しいスタイルだった当社の流鏑馬

るのが干支です。令和八年は「丙午（ひのえうま）」。馬（午）は古代より人の生活には切っても切り離せない動物であり、農耕や運送などに古よりなくて、まことに。地方、神事に



上から鏑矢で的を射るのだが

鞭を振るつて的をたたき落とすのである。たたき落されたのはバラバラになつて見物人の頭上に降つてくる。それを見物人は競つて拾つた。家に持ち帰つて米俵に差しておくと虫よけになるといわれている。騎手は水干に烏帽子、それにたすき掛けという勇ましいいでたち。明治頃まではこれが十騎あまりもあり、一騎駆け出すごとにあの狭い町筋の軒下にひしめく見物人がワツと歎声を上げた。いつもひとつそりとしている町筋が年一度だけごつたがえす賑わいにわきかえるのだった。馬は氏子や近住の主に農家から進んで差し出していた。自分の家の役馬が神事に出場することは名譽だつたのである。



令和8年 帯祝い 戌の日について

妊娠5か月目に入った妊婦さんが
腹帯を締めて出産の無事を祈る安産
祈願。十二支の中で多産なのにお産
が軽いといわれる犬にあやかり、戌
の日に祈願をおこなう方が近年増え
ています。1月～6月までの戌の日
は次の通りです。

厄祓いのご案内

ご家庭や会社などでお祀りした神札や御守は古札納所にお納めください。

お納め可能なものは神社でお受けいただいたものと、しめ飾り（橙は外す）に限ります。

門松・鏡餅・結納飾り・ぬいぐるみ・人形・財布・衣類などは、神社で焼納できませんので、ご協力の程お願ひします。

終戦八十年戦没者慰靈祭・平和祈念祭斎行

昭和十二年に始まつた大東亜戦争が昭和二十年に終戦を迎えてから、早や八十年の歳月が過ぎ去りました。わが国においては、最愛の家族の幸せを案じ祖国の繁栄を願いながら、遠い戦地及び本土の空襲等によりお亡くなりになつた方々は三百十万人に及びます。ここ大分市も空襲を受け、市街地のほとんどを焼失し、当社も社殿・神宝類はみな悉く戦火に失しました。

この筆舌に尽くしがたい苦難の時代、悲しくも勇ましく戦死された

方々を追悼し感謝の誠を捧げ

るとして、当社秋季大祭の初日にあたる十月十八日、春日公園内西側にある忠魂碑前にて終戦八十年戦没者慰靈祭・平和祈念祭を神社主催のもと斎行いたしました。



祭典には総代、敬神婦人会、氏子青年会をはじめ、校区遺族会、自治委員、各団体の代表者が参列。宮司の祭詞に統き、大分縣護國神社仕女による「みたま慰めの舞」を奉奏。ご英靈の御心を御慰め申し上げました。



忠魂碑と春日公園

大分市最初の公園 春日公園

わが国の公園制度は、明治六年（一八七三）一月十五日の公園開設に関する太政官第十六号が発布され、これに基づき、全国各地に公園が生まれ、春日公園も市内最初の公園として整備されました。公園内には公園としての施設（遊具）以外にも忠魂碑や賢女起世の碑、そして蓬萊山などもあります。



人工の築山 蓬萊山

仁治三年（一二四二）、大友親秀が春日社再興にあたり、府中（府内）鎮護、大友氏の繁栄を祈願して築いたといわれます。慶長六年（一六〇一）、竹中重隆が府内城大増築の頃、肥後藩主加藤清正を招き登つた際、天守と等しい高さの此の山は城内が伺え不利益であると、重隆にすすめて取り壊させた。その後、正保二年（一六四五）、日根野吉明が領内の豊饒を祈る名目として、春日社に蓬萊山を再び築くことを発願。城主自ら土を盛り上げて工事に執りかかつたため、領民こぞつて奉仕し、速やかに完成。猿樂や連歌を催して竣工を祝つたと記録されています。また併せて「過去七仏（釈迦とそれ以前の仏）」の廟を建立。昭和十二年、忠魂碑建立に伴い、「山移し」を行ない、現在の位置となります。

忠魂碑

高さ約十メートルほどにもなる忠魂碑は昭和四年（一九二九）、大分県在郷軍人会並びに県民の奉賛によって建設されたもので、日清日露戦争・濟南上海事変・大東亜戦争にて戦死された英靈をお祀りしたものであります。また碑としては当時、市内では唯一のものであり、水道が市内に敷設された際には、水道を市民に宣伝しようと、碑の前に池を掘り、噴水を設けました。

終戦後、マ政令により塔の頂上の砲弾をはじめ周囲の銅板が取り除かれていきましたが、昭和三十二年（一九五七）、この状況を遺憾に思う市民により復旧運動が起こります。「忠魂碑復旧発起人会」を立ち上げ、自治委員・自治運営委員・婦人会等を通して、市民一世帯あたり平均十五円の募金を目標に活動を展開しました。そして約半年で二十七万円が集まり、さらに市からの補助金十万円が追加されて目標に達したことから、念願の修復工事に着工。翌昭和三十三年十月、見事完成に至つたのです。その時の工事内容は碑の周囲に鉄柵を設け、塔の頂上には平和の象徴としての鉄球を取付けるというものでした。

その後、碑はひび割れや鉄さびなどの老朽化により危険な状況となつたことから、惜しまれつても平成六年（一九九四）二月に解体。修繕した上で胴の部分のみを公園西側に移設して今日に至っています。尚、「忠魂碑」の文字は時の陸軍大将金谷範三（豊後高田市出身）揮毫によるものです。

「かつて本祭典は遺族会や地区が中心になつて執り行われており、夜には公園内にて盆踊りがおこなわれ、二重三重の輪が出来ていたことを思い出します。これら行事もいつの間にか無くなつてしましましたが、ご英靈の御靈の平安、そして平和の尊さを祈る本祭典は今後も続けて参りたい」と宮司が挨拶しました。

神社研修旅行

去る十一月十七～十八日の日程で恒例の神社研修旅行を実施しました。本年は福岡県内の神社を巡る行程で計画、先ずは神の島として知られる沖ノ島有名な宗像大社へ。正式参拝の後、沖ノ島の宝物が展示されている神宝館を見学しました。

午後からは福岡市内へとバスは進み香椎宮へ。同宮は宇佐神宮と同様に年に一度の臨時奉幣祭（勅祭）が秋に斎行され、尚且つ昨年は御鎮座壱千三百年を迎えた。また本殿玉垣内では「本殿の周囲には榎、蘇鉄、かりんの木が左右に植えられています。これは榎は「日本」、蘇鉄は「南方（南洋）」、かりんは「中国（大陸）」を意味し、三つの地域が調和することを表しています。」と伺い、大陸に近い古くより貿易の中心であった福岡ならではを感じました。



その後、終戦八十年となる本年、市内中心部にある福岡県護国神社へ参拝。夕方の閉門前にも拘わらず丁寧にご対応くださいました。

翌二日目は糟屋郡の宇美八幡宮へ。同社は神功皇后が応神天皇をご出産された地としてしられ、年間通して安産祈願や初宮詣など多くのご家族が参拝される神社であり、当日も着物姿のお子さんたちが七五三詣に来られていきました。

そして、バスは一路太宰府天満宮へ。平日にも拘わらず境内や参道の門前は多くの参拝者で埋め尽くされていました。こちらでは来年五月までの間、本殿の大規模修繕工事がおこなわれており、本殿前のお仮殿は大阪万博の大屋根リングを手掛けた藤本壯介氏のデザインによるもので、屋根には三十種を超える草木が植えられているなど大変珍しい建物となっています。「菅公は飛梅のお話で知られるほど梅がお好きですが、同じように菊も好んでおり、今境内は菊花展をおこなっています。」と職員の方から紹介され、さまざまな菊を拝見させていただきました。

大分への帰路の途中には西日本有数の航空基地であった太刀洗平和資料館にも立ち寄り、特攻へむかう前に綴った青年たちの遺書や空襲などで亡くなられた十代の少年少女の写真を見ると涙が出てきてしまいます。二日間にわたって福岡県内の神社を詣でましたが、各社それぞれ特徴があり、素晴らしい研修となりました。ご対応くださいました職員の方方に心から感謝申し上げます。



春日町小学校 三年生 自然体験学習

地元春日町小学校三年生が自然体験学習の一環で来社。神職から神社の歴史やお参りの作法などのお話をあり、その後児童から御神木や神社の仕事内容など、活発なやりとりがありました。



七島イのしめ飾りづくり

「春日物語～お正月～」を開催

十一月三十日、參集殿にてワークショッピング「春日物語～お正月～」を開催し、約五十名が参加しました。開催前には神職より「新年を迎えるにあたつて」と題して講話をおこない、ワークショッピングではしめ飾りやミニ門松づくりなどお正月にまつわる小物を制作しました。



花のアート作品 奉納



当社では夏の期間中、手水舎の水盤を活用して花手水を実施しておりますが、この秋は特別に「花の店とがわ」（大分市牧）さんと豊後大野市の生産者である「村石」さん、そして「あつきらきら農園」さんにより花手水や七五三の撮影のアートを作成奉納があり、多くの方の目を楽しませました。

◎表彰	表彰・奉納
神社庁大分支部	
永年勤続表彰	十年
小橋 雅治	
笠置晃生・敦子	
(株) 大野屋	
日月旗	
本殿向拝釣燈籠	
小橋 雅治	
宮本重樹 治	



ミニ門松づくり



児童たちに戦争で社殿が焼失したことを話す山本禰宣



大切な方々からの
祝福に包まれて
お二人らしい
あたたかな一日に



披露宴のご案内

当社では、披露宴は1日1組様限定、御両家のゲストだけでのご利用ですので、ゆっくりとおくつろぎいただけます。また、小さなお子様のゲストがいらっしゃる場合も、周りの目を気にすることなく安心して披露宴を楽しんでいただけます。

結婚式専属のプランナーが常駐しております。隨時ご見学・
ご相談を承っておりますので、お気軽にご相談ください。



神あかり式

千の結
ちよのゆい

たそがれは
昼と夜が交差する
美しいひと時です

千年楠の下

薄明に浮かびあがる

朱色の社殿と

足元を照らす

行燈の灯りが

二人のしあわせを

紡ぎだします

一日一組限定
本殿・雅楽生演奏・巫女舞

お問い合わせ
春日神社婚礼担当

○九七一五三二一五六三八
HP:kasuganomori.jp/wedding